

## ■「効果の見える治水事業」

### 香川県 本津川(高松市)の治水事業

#### 『本津川広域河川改修事業』

香川県高松土木事務所長 竹内 克宜

たけうち かつよし



本津川は、香川県のほぼ中央に位置しており、その源を讃岐山脈北麓のなだらかな丘陵地帯である高松市香南町に発し、綾川町、高松市国分寺町において支川を束ねながら北へ流下し、高松市香西本町、郷東町で瀬戸内海に注ぐ流路延長約21km、流域面積約60km<sup>2</sup>の二級河川です。

その流域は、高松市、綾川町にまたがり、JR予讃線、高松自動車道、国道11号等の主要幹線が東西に横断しており、この地域における社会・経済・文化の基盤を形成しています。

本河川においては、昭和43年より河川改修事業として河口から順次掘削や引堤による河積の拡大ならびに護岸の整備を実施しており、現在に至っています。

これまでに本河川では、流下能力不足のため、度々台風などの大雨によって氾濫を繰り返し、浸水被害が発生してきました。特に香川県全域に甚大な浸水被害をもたらした平成16年台風23号の出水では、沿川の高松市鬼無町等において人家流失を含む約380戸の浸水被害が発生しました。

そこで、平成21年度より村田井堰上流から、本河川流量が増大する古川合流点までの1.2kmを緊急対策特定区間に設定し、概ね50年に1回程度発生する規模の洪水を安全に流下させることを目標に、掘削、築堤、護岸整備、狭窄した既設橋梁や取水堰の改築などを重点整備してきました。昨年までに、緊急対策特定区間の整備が完了し、流域の治水効果が大幅に向上したものと考えています。

現在は、昨年に引き続き、古川合流点から上流の小掛東橋までの未改修区間について、河川改修計画を立て地元の協力を得ながら用地取得を進めており、用地取得が纏まり次第、河積の拡大に向けた護岸整備等の工事に着手します。

今後とも、引き続き出水による浸水被害を早期に軽減できるよう、河川改修に取り組み、災害に強い快適な郷土を目指します。

#### 位置図



①平成16年10月台風23号出水による被災状況

## ■「四国・水こぼれ話談話室」

### 「高松市の浸水対策」(香川県高松市)

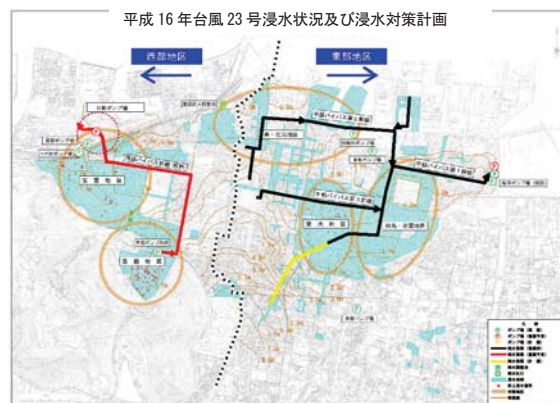


高松市長 おおにし ひでと

高松市は、多島美を誇る波静かな瀬戸内海に面し、これまで人々の暮らしや経済・文化など様々な面において、瀬戸内海との深いかかわりの中で、県都として、発展を続けてきました。

平成17年、18年の合併により、現在市域の面積は、375.23km<sup>2</sup>となり、北は瀬戸内海から南は徳島県境に至る、海・山・川など自然を有する広範な市域の中に、にぎわいのある都心やのどかな田園など、都市機能・水・緑が程よく調和し、豊かな生活空間を有する人口約42万人の中核市です。

市中心部には、堀に瀬戸内海の海水を引きこんだ、日本三大水城の一つである史跡高松城跡の玉藻公園、市街地東部には、源平合戦の古戦場で有名な屋島が位置しているほか、海上4kmには、女木島(鬼が島)、男木島・大島が浮かび、市南部には塩江温泉郷などがあります。



福岡ポンプ場整備状況



屋島西ポンプ場整備状況



本市の中心市街地は、昭和8年から下水道整備が開始されましたが、当初の想定よりも都市化の進展が著しく、その排水能力不足により、大雨時には浸水被害が生じるようになっていました。

特に、平成16年の台風23号では甚大な浸水被害が発生したことから、平成17年度に策定した「中心市街地浸水対策計画」に基づき、新たなバイパス幹線管渠の埋設とポンプの増設を進めることとし、現在、本市の東部地区においてポンプの増設を行っているほか、周辺市街地においても、ポンプ場整備を行うなど、浸水被害の軽減・解消を図っているところであります。

今後とも国や県の御支援を賜わりながら鋭意事業を推進し、災害に強い安全・安心なまちづくりを進めてまいります。